

(様式1)

令和3年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立両国中学校
校長名	渋谷 俊昌

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・全学年全教科において、平均正答率が全国平均を上回っている。・全学年全教科の全ての観点において、目標値を上回っている。・平均正答率の昨年度との比較において、2年数学、3年国語、社会、理科において、前年度を上回り、成長している様子が窺える。	<ul style="list-style-type: none">・見通しと振り返りを生かした授業の実施 授業の最初に目標を生徒にしっかりと提示したり、授業の最後に振り返りを生徒自身に行わせたりすることで、前時と本時、次時へのつながりを意識させ、主体的な学習を実現する。・「見方・考え方」を働かせた授業改善 全体的に「基礎」より「活用」が低い傾向にある。そのため、各教科で基本的な知識・技能の徹底を図った上で、思考力・判断力・表現力を身に付けさせる場面を積極的に取り入れ、「見方・考え方」を働かせた深い学びを実現する。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・平日の家庭学習の時間について、2時間以上学習している生徒の割合が、全学年で、全国平均を上回っている。・学習に対する理解度が高い。・昨年度課題であった「学んだことが将来、社会に出たときに役立つ」という質問項目に対して、2学年では全国平均を4.9ポイント上回っている。	<ul style="list-style-type: none">・平日の家庭学習を「全くしない」と回答する生徒が各学年4.1%～11.5%いるので、昨年度に引き続き、家庭学習の習慣がない生徒に対する手立てを考えていく必要がある。・平均正答率が高い生徒でも、自己肯定感が低い生徒が少なからずいる。昨年度の課題である「学んだことが将来、社会に出たときに役立つ」といった肯定的な意見が、3学年では全国平均より5.6ポイント下回っているため、主体的に学習に取り組む態度を高める工夫を継続的に行う必要がある。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・放課後学習教室への積極的な参加・各種検定への積極的な受検・朝学習等での振り返りシートの活用	<ul style="list-style-type: none">・既習事項の定着確認と繰り返しの学習 基礎的な知識・技能の定着のためには、通常の授業だけでなく、放課後学習や家庭学習との連動を図っていく必要がある。朝学習や放課後学習で同じ内容に取り組みせ、何度も繰り返し学習することで定着を図っていききたい。・週末にタブレットを持ち帰らせているので、タブレットを活用し、家庭学習の幅を広げたい。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 放課後学習の充実

前年度からの課題であった「DE 層の引き上げ」のために、全ての生徒に基礎・基本を確実に定着させたい。授業ではどの生徒に対してもわかる授業を展開し、既習事項の定着を目的として「ふりかえりシート」の活用を継続している。また、放課後学習として、週 2 日間放課後 1 時間程度、「両中アカデミー」を開設している。これまでに毎回、平均して 11 人以上参加しており意欲的な姿が見られる。

また、各種検定試験についても、各教科（国語・数学・英語）が独自で対策講座を開き、基礎から応用までの問題に取り組みせたり、面接対策講座を行ったりきめ細かい対応を行っている。その効果もあり、生徒の出席率も高く、合格率が向上している。

(2) 家庭学習時間の確保

確かな学力の定着と一層の向上を目指す学校として、授業では前時の復習を丁寧に行い、単元テストを行う等してフォローアップを行う。また、授業内ではタブレットを使用して、ロイロノートで意見の共有を行ったり、家庭学習として生徒にタブレットドリルで多くの問題に取り組みせたり、ICT の効果的な活用に取り組んでいる。

定期考査 3 週間前から各教科が試験範囲を提示し、学習計画を立てるよう指導している。教科ごとに目標を立てたり、提出物の期限を確認したり、「いつまでに、何を」を明確にし、計画表に記入させている。3 週間は担任と計画表のやりとりを毎日行い、適宜助言するなど個に応じた指導を行っている。各学年とも、一日の平均学習時間は 3.02 時間取り組んでおり、意識は高い。今後の課題としては、定期考査がなくても家庭学習が習慣化するように、課題を与える形式を工夫する等、さらなる改善を図りたい。

(3) 「見方・考え方」を働かせた授業改善と評価の工夫

昨年度より継続して、校内研修のテーマは「見方・考え方」を働かせた授業（主体的・対話的で深い学びの実践）である。今年度は、校内研修会として音楽・家庭科・英語の研究授業を行う。また、これ以外の教科の教員も研究テーマをもとに授業公開を行い学校全体として授業改善を目指していく。

さらに、「特色ある学校づくり推進校」の研究として、教科横断的な学習を取り入れ思考力・表現力・判断力の育成にあたり、プロジェクト学習に今年度も取り組む。各学年のテーマは、1 年生「防災・減災」、2 年生「生活・健康」、3 年生「進路実現」である。「なぜそれを学ぶのか」という問いかけを継続的に行うことで、自ら目的意識をもって学習に取り組む態度を育み、全教科の学びへの意欲につなげたい。

課題としては、意識調査において、学習することに対して肯定的な生徒が多い反面、「学んだことが将来、社会にでたときに役立つ」という質問項目に対して、3 年生では全国平均を下回る結果になっているので、目的意識をもち学びに取り組む姿勢を育んでいく。

3 「令和 4 年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・ 全教科の DE 層を 20% 以内に減少
- ・ 家庭学習時間の充実
- ・ 授業アンケートの肯定的回答の増加